こころのあり

十界の卷

前篇

心の所變……一
衆生心の形而上論……二
攝取目的論……五
一心十界十如を變造す……八
人格要素……一〇
十如……一一
體……一二
如是相……一三
顏面に性格表相せらる……一六
力……一八

後篇

一心十界……二〇

心の所變

此の圖は一心に十界を具し、十界を造出すの表相にて、一心十界百界千如國土と五蘊と衆生との三世間に互りて、一念より三千を造り出すの義は天臺大師の案出する所、一心十界の原圖は天竺慈雲法師の初めて之を圖に表示せしと聞きたり。百界千如乃至一念等の說明は理論としては實に然かるべし。今は宗敎的信念修養をし之を實用を目的と爲るを以て、一心に十界を具し、其の具する處の性より實行によりて十界を造り、十界各十如の法を具するが故に、人人其の精神中が何れに向つて發達し、如何なる性格を形成し、いかなる相貌を表しあるかを觀察し、迷と惡の精神を自覺し、悟と善の精神に向上せしめ、眞理の目的に則らしめ、自己に有する處の三惡の性を改ため、自己に有する聖靈的正善の性を開發せしめ、凡夫の迷を轉じて聖者の悟となし、惡道の苦を拔き靈界の妙樂を受け、衆生の罪惡を廢して佛陀の聖正善に進ましめんことを目

的とす。人の精神性格を區分するに十界を以てし其の人格を構成する處の要素十如を以て判斷する時は、實用的宗敎として其の人の天稟及習性偏癖病的弱點を診察して、其の理想的人格を形成するに實に便なり。例せば體內の疾病を診察し其の病に應じて療法を施すが如し。宗敎家は人の精神の疾病と弱處を觀察して其の宜しきに隨つて治術を施し健全なる心靈となし靈的生活活動たらしむを目的とす。

衆生心の形而上論

生物中に就て、人類の內的生活精神は是一身を掌る帝王たり。此心なるものは能く此の身體四肢五官一切を支配し活動せしむ。一の生物と人類とは其の內的生活即ち精神に於て其の發達せる程度に於ては大に異なれども、其の生活形式に於ては類似せり。然れば一切の生物は皆其の形而上同一の原理より發達せるものとす。

一切衆生の統一的全體を如來藏心と云ふ。一切地水火風空及び識との六大即ち物心不二の一大心靈を毘盧舍那如來と名づけ、即ち學語に所謂宇宙實體また宇宙精神(全一)體心とも云ふ。天地萬有を統一綜合したる精神態なれば、總該萬有心とも云ふ。一切萬法の一大原則なれば法身とも名づく。

宇宙萬物色心依正十界十如三千塵沙の萬法は悉く此の全一如來藏心の發現なり。之を宗敎的に云はゞ、即ち法身毘盧舍那如來と名づく。即ち萬有神の名なり。如來は始めなく終りなく本然の自性なれば自性天眞佛と云ひ、宇宙全體が如來の身心に在ませば物心不二の大日と云ふ。法身は物心不二萬法一如の本體なれども、內容豐富の性德を含藏するが故に如來藏性と名づく。法身は一大心靈なれば一切智と一切能との智慧と意志との兩性を有す。萬物を開展產出するに秩序の整(　)するは一切智にして萬物を生活活動せしむるを一切能と云ふ。

一大法身より產出せられたる個々の衆生を小法身と曰ふ。全體が大ビルなれば個々は小ビルなり。大ビルは大造物主なれば衆生は小造物なり。一切個々の小造物主はま

た其上の小造物に統制せられ一切の小造物は一大造物主の統一制成の法則によりて造物主たり。例へば小植物は自己の元形質より生殖分産の職能を有して自己と同類の植物を造化し生産す小動物に於ても然り。蟻にあらざれば蟻を生産造化の用をなす能はず。人にして人を生産す。大造物主は小造物の手を外にして直接に生物を造らず。然り而して小造物たる衆生もまた大造物の統一的原則の法則を離れて獨り生産することを能はず。故に一切衆生の統一的全體は即ち如來心なることを。法身が萬有を開展生産することを世に自然法と云ふ。

一切の衆生及び國土等造物の用をなすに、たとひ自己に造物の作用ありと云へども獨り自ら成生することなし。必ず横に因緣相待つて成す。地球は太陽との關係を離れて獨り萬物を化成する能はず。雄性獨り子を産まず。必ず雌性の因緣によりて成るが如し。因緣を以つて成れるが故に果あり報あり之を因果律と名づく。

一切の生物因緣と因果の關係によりて生存す。此の因緣の關係によりて無量に發展し、一切の生物實に無盡無數の種をなすに至る。其の内的生活より性相體力無量に發展して、一切衆生因緣果報無數の差別、無限の階級をなすに至れり。衆生の内的生活より性相の差別等名狀すべからず。

一念三千は通（　）の分類にして、一切悉く差別的現象たるは無盡々々なり。一切衆生悉く個體的特殊的の相性體力作種々の因緣果報を受くること無盡々々なり。ここに於て其の相を見て其の性を推し、體を視て其の精力の種量を察し、其の因緣の依て來る處を察して、改正陶冶し向上進化せしむるの理は甚だ深甚なり。故に經に唯佛と佛とのみ諸法の實相を知り玉ふと。

攝取目的論

汎神論的見解は、一切衆生悉有佛性、個々悉く小法身として小造化の用をなすは、是小大日として佛性有すればなり。然れども小造物は大造物の統一原理を離れては造

化の用をなす能はずとすれば、統一原理の如來心には衆生を生産し開展せしむるには終局には攝取すべき目的有るべきなるか否かは古來の問題なり。大乘佛教にては統一原理の如來に目的に歸趣せしむべき理性存する如し。其の豫備として一切衆生に佛性を具有せしむ。而して自然界に衆生界に開展するには、幼微なる劣等生物より進化して無數の階級を經て向上し、其の向上の目的は精神に有るが如し。いかんとなれば精神のよく發達したる生物は高等の位置に居ればなり。精神の最も高等に發達したるは人類なり。また其の人類にしても精神の方面に於て特に發達したるものを賢人と云ひまた聖人と稱す。普通の人類は精神が高等に發達したる賢聖を師表として之に接近するに隨つて人格の等級を立つ。

世界人類が神として救主として精神界の北辰としたる歸嚮すべき處の大聖者釋迦牟尼の如き、またキリストの如きは、神の人類を神の目的に歸趣の光を與へんが爲めに世に出でたりと。

一切の衆生に佛性を與へて豫備とし、之等が漸く高等生物に精神を向上せしめ、終に神の目的に攝取せんとするに至つては、宇宙生物過程の中に、神の目的の理性存するが如くに觀せられたり。

然り而して佛教に此の終局目的は眞善美の天界に在して衆生の機緣熟したるを擇みて其の目的に攝取する（靈）力を即ち報身如來となす。最高等の靈界の方面に在して智慧と慈悲と靈化の光明を以て信念の衆生を攝取したまふ阿彌陀佛是なり。

然るに衆生は其の本能的に靈性を有すると共に、無明煩惱なる罪惡の垢障ありて、如來の聖靈態に反對なる性なり。如來の智悲の光明によりて靈性開發し煩惱靈化せらるゝ時は、如來本覺なる常寂光極樂界に攝取せられて、常樂我淨四德莊嚴の都、報身如來の相好光明普く照し、金銀瑠璃寶石を以て飾れる光明永へに輝ける處に於て、如來と同じく大法妙樂を飽くまでに甘め、永遠の生命と常住の平和とに入ることを得。是結局目的にして、此ここに至つて諸佛平等絶對圓滿の覺位なり。如來の目的は甚深に

して無明罪惡の衆生の自ら覺知すること能はざる處、即ち甚深微密の妙境なれば、入りがたし窮ひがたし。衆生は本覺如來の子たりと雖、無始の無明に翳せられて、自ら知ること能はず。斯る迷沒の衆生を憐みて、如來の大悲三昧より、神を分ちて神を人界に降す。今此界印度のカピラに降誕したまへるゴータマ佛陀釋迦牟尼是なり。此を應身と名づく。

一心十界十如を變造す

全體心即ち如來藏心の一分子たる個々の衆生心、其の根底に於て全體心と連絡せるを以て、心の發動する時は十界を造り十如を現す。一心迷悟あり。迷に善惡各三等、即ち三惡道と三善道となり。地獄餓鬼畜生之を三惡道と云ひ、修羅人間天上之を三善道と云ふ。悟に四聖あり。聲聞を小聖と云ひ、緣覺は中聖、菩薩は因にして佛陀は果なり。之を大聖と云ふ。本來一心に佛性と煩惱即ち靈性と肉の性とを具有す。是一心の二面なり。此二面一にあらず異にあらず、相即不二の異方面なり。

衆生の一心十界悟迷善惡の性能を究うして何れにもなりうべき性能を具へ、而して因緣により業に隨て十界を造り十如を現す。

華嚴經には、心を巧なる畫師に喩ふ。工畫師が靈腕を揮ふ時は男女好醜種々の人物を畫くが如く、一心より善惡悟迷賢愚貴賤乃至一切の階級の生物として變作せざるはなし。

人類の自體の物質的分子また衆多の元素を括聚し統治し任持するものは即ち肉的生活の精神にて、物質の分子は被持物なり。之を集め之を統治するものは精神なりと云ふべし。

人の身體を掌るものは精神なるが故に。其の各個人が精神の形式內容內に本質形成する時は、其の內的生活の表象たる其の相貌に現はる。十界の中何の性か最も重き方に現はる。

人間の中に於て、其の內的生活精神に本質形式と內容とに於て、善惡迷悟十界に其の人格を區別して、之に總括す。

人格要素

人格を組織する處の要素は、其の性格と體格と能力とにあり。人格を組織する素因には稟性と習性あり。稟性は原因、習性は緣よりなる。性に知性感性活動即ち意志、性格の三能力の合成物とす。また其の體質が精神と聯絡し體は精神全體を形成する處の本質なり。三大能力を總て統一したるを精神態と云ひ、其を三性を區別して、各十種に類性格を別つべき時は三十の性あり。知力邪智不正見、感性が他人の苦劇を見て喜び、逆惡の業に於て趣味を感ずる殘忍酷薄を好むが如きは獄的性格等、十界各三、三十になる。

形氣の質を統一し支配する處の本心を以て合して心體とす。此本質を形成する處の精神體にもまた十界に分つべし。體に量と質とあり。體格の大小質の良否あり。五官の機能に腦髓神經の組織の巧拙質の精麁物質的構成の上にも精麁勝劣あるべし。其の精神的本質の形成に就ては十種に量に質に各十種に、形氣に於てまた量と質乃至無量に分別すべし。

十如卑近なる例を以て示さば

一の橙果あり。一顆全體を體として、表に形はれたる色と相とを相とし、之を食する時は其の味の中に刺激性を以て舌を刺激するは其の性にして、食物の消化をたすくるが如きは其の能力にて、其の果實の量大小固形態と液體は即ち體質なり、此の果實を成熟するに至るまで花の雄蘂に粉花を原因とし、雄蘂には(　　)はるるを緣として、花散りて果を結ばんとするに胚胎せる核に此の果實をなすべき原因ありて、吸集する處の養分を緣とし、成熟せるを果とし、一其職能を以て世に酬ゆる報とす。

十界各性相を異にす。

體

人は解剖學生理學にて研究し得らるる體の量と質の性とを有し、また腦髓神經より全體營養機能生殖機能等は其の構成せられたる量と質とに於て或る分までは量ることを得べし。

物質的の生理的體質と心理學的に解剖せらるる全體を合して體とす。

大腦を精神の宮殿とし髓神系を以て之を統制するは、また一切の四肢五官を其の命令の下に使役す。是を我及び我所とす。個人の我及び我所を執する處に於て我々所の量と質とは人々特殊的なり。個人我を實に執するものを迷の凡夫とし、即ち人格なり。個人我の本體は全體の大我と關聯し本一體不二なりと自覺し、大我を中心として小我は其の機能的に過ぎずと見做して超然たるものは靈格なり。

如是相（人格の表相）

其の性格の內的性格の內に堅實に其の意向習性嗜好思想等を以て其の人格を組織す個體化する所の性格は內に充る時は自ら其の表相に顯彰す。相と云ふ。相は以て外に據る覽て以て別つべし。譬へば人未だ禍あらざるに（　）色に彰る。外相に覽て其の凶衰を記す如く、相は能く其の內性を表相す。地獄乃至六凡の人格の其の本質性格がいかに形成し偏し有るやをば表相を以て觀ずべし。

觀相は運命觀にあらずして、道德的の惡性を矯正して正善に改めしむるにあり。たとひ天稟凶惡の相なるも、修養の結果如來の心光に解脫靈化する時は、人格の圭角を去り、すべての惡質脫するが故に、圓滿なる人格玲瓏と輝き、靄々として春風駘蕩、自ら之に接近する時は、其の諸根悅豫して姿色淸らかに光顏麗はしき其の溫容に接すれば、自ら（　　）を開くべし。然り而して其の中にまた侵すべからざるの威嚴の

存するが如きは、智悲圓滿なる表相なり。烱乎たる眼光光りあり、其の言語の朗らかにして婉圓なる、五官及び全體に其の表相する處悉く菩薩の表相たり。

道に入つて精練熟したる人は、通途の相を以て判斷すべからず。ソクラテースは其の容貌甚だ醜惡にして一見賢哲の如くに見るもの少しと。然れども彼が聖德の熾なるは古今に輝けり。故に其の精神的表象としては必ず大賢の德相具はれること疑ふべからず。張良の智謀古今に超えたるも其の容貌婦女の如くなりしと。然れども心あるものの之を觀るときは其の精神表示たる相貌には其の卓絕たる表相ありしならん。

精神の修養能く遂げたる人は通途の觀相を以て律すべからざることは、水野南北の相傳に、斯の如き故實を記せり。其の意に曰く、其の門人南北先生に問ふ、先生の、相家の所謂相としては、甚だ凶惡の相なりと、然るに相家の偉人たりとす、門人其の不審を質す。先生曰く修行能くなすものは無相に達す。無相より表するものは三十二相なりと。予は已に無相に達せり。何ぞ通途の觀相を以て之を制することを得んと。彼が意によれば天稟の相は何にてあらうとも、修行よく熟して精神の垢質脫すれば、無相にして精神の表象たる三十二相を以て莊嚴し、聖人の德相備はるべし。故に唯一概に肉團の相のみに偏執するなかれとの意なり。

然れども精神の表相は普通は骨格四色を以て其の性格の能力の特質を表相せるや疑なし。故に宗教家所化の病を知りて藥を說く。其の性格本質力能の表相を以て觀察し、其の病的偏執を察して、治術を施さざるべからず。

觀相を以て其の性格を觀察せんには、

人の精神的形式は其の言語舉動に緣りても粗ぼ察知することをうべし。喩へば彼は可笑き故に笑ふ、悲しきが故に泣く等の如し、容貌觀じて其の性質意志を判斷するが如きは自然と感應する、俗に云ふ蟲が知らすと云ふ如き、また觀相的修養の結果は亦其の術に妙を得て觀察明くなるなり。觀相の妙は氣を丹田に靜め、無想無念に入つて、其れに對するものを觀察する時は、了々として其の性格意志及び內容を知見すること

を得ると。心鏡明了なるが故に萬種の心相自ら顯現す。人焉ぞ隱さん。其の容貌の上に其の言語の上に其の性質及び感情まで表現すと。人は其の內容なる感情を包むは是人情のしからしむる處、喜怒哀樂より感情的活動を他人に發露せざらんことにつとむ然れども自ら其能はざるの時は發露するに至る。其の容貌と言語と實行の表相する處、其の內性及び本質を現はす標準となる。

顏面に性格表相せらる

方正の面相は意志堅實、決心鞏固、意志金剛の如く、勇氣剛毅果斷沈靜嚴格の態度、一度決意再び變せず。

長方形は憂鬱的悲觀不滿不平の念强く、平和歡喜あるなく、歷緣對境憂思煩擾、小變にも非常に感じ多く、些細な失敗にも落膽し、己が主張を人と爭つて協はざる時は先方を恨み不快に耐へず。素行にも健全ならず。薄弱憂鬱勇氣缺乏、難に臨んで膽雲く氣萎む。

卵形相は神經過敏、小事にも感じ易し、喜怒哀樂度を過ごし、激昂する時は前後を辨せず、事理を顚倒し、自己の主張は非なるも徹さんとす。

想像を逞しくし、知能には一定せず、約束（　）豹變す、感情强くして意志弱し。

圓形相は溫厚圓滿、極めて穩健實着、淡泊にして氣がねなく、愉快、溫容快々たり。衆に敬愛せらる。肉慾感情に富んで自ら情慾も制する能はず、雅量を有して、自ら情慾に道を逸し、また他人にも寬容にしてゆるす量あり。

面　部

上部は智力を表し、觀察果斷等に富み、下部は意志を表す、唇厚く口の大は鈍根、欲深く極めて剛情、口許しまりあるは其の心のひきしまりて堅固なるを表す。鼻低く隆起なきは智力の發達（　）るを表す。

眼には最も人の性質を現す。仁慈博愛、殘忍酷薄、周到、惡意等、眼の活動いかんは其の意を表す。眼は其の精神を表相す。額の廣さは理性に富み、皮膚の緊張と血色は感情を表す。額長く高き狹きは熱心執心忍耐力强し。額の堅實なるは意志實着なり。

面部より身體全部に其の性質を表相す。乃至言語動作一切の事として其の內性本質の表現にあらざるはなし。

人天稟の相いかんにかゝはらず、宗教的解脫靈化を目的とする宗教にては、天稟の相のいかんに拘はらず、肉我と形相は本より罪惡の凝固物たりと觀じ、一心不亂に自己の最源に潛める佛性を發展せんが爲めに、神心を凝し、修養功をなす時は、精神本質を形成する處の精神の佛化する時は、自ら相貌一變して慈悲圓滿の相とならん。

力（能力—萬法皆功能あり）

精神の力智力意力あり。人の事をなさんとするの原動力は精力なり。自己の性格を支持し菩提道を向上せんとする强大なる精力を要す。勇氣決斷遂行等は意志の力なり。人はいかなる難事も自己の精力と勇氣とに依賴するを習慣となすべし。

意志の力最も重し。

元氣滿々たる意氣は人格の靈力、大道成就の力なり。菩提道心の意氣ある處に生命あり。如來の一大靈力より湧出する力は無限なり。かかる靈力に連り來たる偉人の行爲と意思とは永遠不撓に持續して、精神界に一大精力を扶植し、未來の志士のために志氣を發揮し、品性を陶冶し、人格を建設せしむるの緣力となりて、一切の人類を無上道に……

（以下斷絕）

一心十界

宇宙精神を根底とする人この心は理に十界を具すとて、十界何れにも成り得べき性能を有て居る。而して因緣の規定によりて善惡迷と悟の十界を造り出すのである。巧なる畫師の天人をも鬼をも描き顯はす如く、一つ心より凡と聖の十界を造り出すのである。

一つ心が善と惡に分るる關係は、此に識と形との二面あり。暫らく形の方より說明すれば、朴純な性からいかゞして種々に分るると云ふに、本性は父母の遺傳の素質に染られてまた姙娠中の母の心持かたのいかゞは大に其子の素質に關係を及ぼすのである。故に父母たるもの惡き心を持つまじきもの、其子にまでも惡素質を遺す恐あり。それから生產の後には少年の家庭、學校社會の敎育その佗の周圍の事情は大に其人を善惡に鎔化する動機である。そこで各人の一生の業作と習慣との性格が鞏固になる。之を業識と云ふのである。

さて個人の靈魂は死とか不死とか疑ふけれども、そは獨乙のカントが天國は理論には有とも無とも證明できぬけれども、實行の結果はなければならぬと云ふ如く、人の一生の習慣の業識と業の勢力とは唯形體かぎりとは云はれない。銃丸の火藥の勢は銃身にとどまらず。終身の善惡の業識勢力は此身かぎりとは云はれない。力のあるかぎりは發してゆくと云はねばならぬ。何にして人の善惡の性格と其行爲の上に六道瞭然として證明せらる。たしかに一心が十界を造つて居ることが當然である。

人々の精神てふものは不思議の功をもて此心から種々の形を造り出す。之を說明するに此心の大本源を原ねばならぬ。全體人々の心も形また宇宙の最根底は何であらうか。

我身には親ありまたその祖先、そのもとは天地なり。天地の大源は即ち法身如來藏性と申して是が宇宙萬物の其本は（　）き源である。それは形なく色もなき之を宇宙の實體また宇宙精神と申します。如來藏に一切智と一切能とが自然に具つて其自然の力にて此世界萬物は產出されたので、自然知があるから萬物を產出するに秩序がある。一切能で萬物は生活活動せらるるのである。

萬物は如來の意能に出來たから、之に活きて働く我と自然草木などは活て不識精神また無明（　）るので、（　）植物から佗の動物は少し覺ある方へ漸々に近くなるのですべて生活るものは營養と生殖作用とあり。生きてゐるけれども不識で居る。進んで人間は佗の動物に比ぶれば迷の方だけは目が醒めたやうなれども、未だ心靈の目は獨りで醒めることはない。人は宗敎の信仰で覺醒ることが出來る。目が醒めぬ間は生の從來する處、死の趣く處の理がわからぬのである。

個人精神

吾人が心の根底は宇宙心てふこと判りて人々の心は不思議にして理具十界事造十界とて、十界の中何にも成り得べき性能がある、人の法身から賦せられたる性は白紙の如くで、運筆の作用で鬼をも天人をも畫き現すことが出來る。事造十界も人間が生涯の善惡迷悟の習はしによりてまた十界何にもなるといふ。

いかなる規定にて十界

本性は白紙の如き者がいかゞして善惡迷悟とわかるるわけは、佛敎では之を因緣所成と云ふ。

因果律に神識の源玄幽なことは世の人々は分り難いから先づ父母によりて生れ來たことから說かう。

本性は土偶の埴土の如く、偶師が種々の型に入るれば同じ土なれども或は大黑の形にもまたは達磨にも猫にも種々の形となる如し。

本性は定相なければ父母の遺傳によりまた母の胎內にて母酷しく悲めば（　）となり

姙娠中の母が盜み心を起せばその子ぬすみ心の資を有つ。

また產出後には家庭教育其佗の周圍の境遇のなかに鎔化せられてから惡とも善ともなるのである。夫より一生の運命は人の性格を地獄餓鬼畜生修羅人間天上との六道を造り出し、また進んでは心靈を開發して四聖となる。

よき遺傳の素質と宗教のよき修養とは其人を立派に（　）聖るのである。遺傳のよき塑模と教養その佗のよき刺戟によりてその人を生れ更らせて靈格とするのである、

六　道

形は人間にしても性格と行爲から云はゞ地獄餓鬼畜生の行爲と分れてある。

地獄、劇惡極苦の處、黑闇の中に倒まに懸られ、炎々たる猛火の中に焦燒せらる。劇苦少しも間隙あることなしと。人類の中いかなる性格の族は此に墮する。曰く天理に逆ひ人道に戻り仁恕に反して殘忍酷薄佗を苦しめるを却て自ら喜び、義なく禮なく、邪見にして惡中の惡、唯惡の方面のみ發展して良心の命に從はず。惡の業習は惡弊症に陷り、かゝる殘酷の所作人をして戰慄せしむ。殷の紂王己が肉の快樂の爲に國民を塗炭の苦をなめしめし如き、殺盜邪婬等の最も惡業の識あり。惡業の勢力それ何にか喩えん。

餓鬼の二種。有財無財。

有財餓鬼は眼前に食物蓄積すれども其喉針の目ばかりにして食ふこと能はずして飢渴の苦に逼らるると。實に世に私慾の業己に惡弊症に陷り、財を山の如くに積めども之を公益に施すこと能はず、我慾を充さんが爲に人を苦しめ佗に害を與へ、而して我慾に渴いて苦しむものの業識、已に我慾の餓鬼にかたまつて居る業識が何如になるだらう。

無財餓鬼とは食物を見る事聞くことも能はずして常に飢渴に苦しむ。これ何の報ぞや。世に一類の輩あり唯肉慾即ち飲食の慾色欲性欲等の奢婬放逸にして肉慾の奴隷なり。一定の快樂は屢すれば習慣性となり、つひには病的となつて業の識が生ながら肉

慾の餓鬼となり、煙草の餓鬼色欲の餓鬼酒の餓鬼等あり。よしや死すとも之を止るに忍びざる如きは既に餓鬼道に墮落したる業識ではないか。その業力の歸する處定るではないか。

畜生、には種類甚だ多い。いかなるものが人にして畜生的業識となるか。人生の目的は營養と生殖の外あるをしらず。道德倫理の何たるを知らず。仁義禮智の仁恕もなく義務感情もなく、横ざまの根性で横ざまの行爲が即ち形は人類で性は既に畜生である。横ざまの暴なる虎の如き、淫佚なる禽の如き、理に闇き痴鈍なる昆蟲のよう。實にせつかく人類に進んだるかひもなく、畜的に安心を決めて自ら安じて居る業識が世に多くないといはれぬ。自ら私に邪に逆惡なる地獄的、横根性横の行爲は畜生、正にして善なるは眞の人類なり。已上惡に三類を三惡道と申ます。

三善道

無明の中に心の生活するものに三品あり。下品は修羅道、修羅とは世に云ふ天狗根性傲慢である。世に一類の漢ありて唯傲慢なり。經に讒賊鬪亂誠實なく、尊貴自大にして己道ありと謂ふて横に威勢を行じ人を侵易す。自ら舉高して人の艱難を欲す。道を畏せず實に降伏すべきこと難しと。僞道德僞善名譽威權を追求め、傲慢のために人と心の諍爭休まず、かゝる業識が修羅道である。

人間。人類は高等に位し仁義の常倫あり。同情仁恕を以て社交をなし、廉恥ありて義を守り、良心あり、義務感情あり、人類の進むべき目的のために力を盡し、個人は國家の一員として其義務を盡し、天職を全するものは全き人類なり。人の義務を盡す故に人たるの權利を失はず。人にして人たるものなり。

天道。天は天道公明正大博愛無私能く萬物を一慈の下に攝め、世に仁人君子あり、國家の爲人類の爲に己を犧牲にして仁を施す。皇國仁德帝の躬ら節儉をしたまひて國民を賑給したまふ如き、支那の堯舜禹は全く國民の親となり國民を子として愛する如きは全く天道の性なり。

或は電氣を發明し蒸汽機關を發明して天の能を人類に紹介する如きは天道の作用なり。

楠公が忠魂と成て天恩に報ずる如き、世界に於て國の爲に國神と祀らるゝ、多くはこれ天道的性なり。

六道は心靈未だ開明せず、宇宙心靈と冥合し協力せしめたのでなければ無明の中に在て善惡の等級によりて分たるものである。

四　聖

聖とは心靈の覺醒して我心靈と宇宙心靈と一體なることをさとり、心靈の窓を開きて、丁度日中一室の四面を開きて內外共に明なる如く、心靈の窓開きて自己と天と一體、大我と小我と融合して宇宙の目的を我目的として生活するものを聖といふ。形は人間でも心天下宇宙と一體である。

聲聞、とは聲を聞いて悟ぶと云ふ義。佛敎にてまづ釋尊が自ら釋然大悟して心靈を覺醒し、天地一體となりて之を弟子等に敎へ、弟子等は敎に隨て一心に敎の如くに修行した。よく修行したものは其心靈開發した。

聲聞に四の階級あり、丁度學校の階級と同じ。佛道修行は心靈の修行と。第一期に我此の身と心と外より受くる理と我心身と（　）理とを一心に共元理を悟らんとして工夫して身も心も（　）すべてもとばかり（　）第四、には自己と天地同根の眞理が覺醒して　此心身は無我にして天地と一心となりて自ら天地より自己心に揑拌の樂の中にあり。神通天然にして世界の遠近の事は神通して見ゆる聞ゆる佗の人心もわかるやうになるのが羅漢である。

緣覺。人の心の根本を悟らば先づ因緣をさとらねばならぬ、我々は無明の業識から胎內にやどりて五軀が出來眼耳などがかたちつくり、生れ出た時は唯受とて唯寒熱の觸より外にわからない。それから二三歲になると漸次に受感覺が聽視聞等の（　）それから十五位より生殖欲が出て次に四十位よりはものに執着が盛となり、其取執が業

識に（　）みえて有となりて、其業力でまた六道のうち何へか生るる。生るればまた前のやうに種々の業をかさねそのうちに老ひて次に死ぬ、さうして死ねばまた生れ生れてまた死し車の輪の廻るやうにくる〳〵まわつて居る。さつぱり眞に目ざまさねば終に迷の苦輪を出ることが出來ぬと、獨り自らさとりて自分だけはもはや神心が天地と一體とさとりてもはや死生の外へ出で、形だけは人身に居る形、盡くば眞如界へかへる。之を得道といふ。聲聞と緣覺との二つは自ら獨り脫して他をかへりみない。

聲聞とは聲を聞いて悟ること、佛敎にて釋尊が先づ大悟してそれを門人に傳へ弟子等は先苦集滅道の四諦をさとりて、自然に約束せられて生死の苦である。此苦の本は罪惡である。罪惡の本は主我の迷からである。妄我の執着を捨てゝ無我は宇宙と一體となりて眞空眞如の理と冥合して天地同和萬物一體と成る故に世界中のことは自然に神通してわかる。自ら宇宙の內容の自然の揑拌の樂の我胸の中に湧出して來る。而して肉體が盡れば全く宇宙一如の眞理と一如の心のみとなるを聲聞と云。

緣覺とは十二因緣を觀して生死の源をさとりて不生滅の眞理に通達す。生死の源は無明である。覺醒すれば迷なきに、業が迷て業を造れば其勢力でまた生れ生ればまた死を免れぬ。無明を去りて宇宙と一體として宇宙の本質と同一になれば不生不滅安住安穩であると。眞（　）悟入冥合するを緣覺と云ふ。

哲學者の如き人生と世界の元理を覺りて若し之を智のみに有し、實（　）にする時はまた緣覺なり。

菩薩。智と德と兼具する聖者なり。智慧ありて眞如來の眞理と契悟し、愛ありて宇宙的同情を以て人類を擔ふて救ふ。衆生と我身と同根、衆生の心と吾は（　）身同體、衆生を度せずんば吾も成佛せじとの精神及び實行なり。如來の理想を實現的に行爲する仁なり。

釋尊此菩薩心を以て成佛し、キリスト、マホメットの如き孔子ソクラテスの如き、善導達磨の類ひ、吾國の空海源空の諸の聖者を始めとし、如來の靈應を感じて、自ら

永恒の生命に入りて一切の人類を誘導する意と行爲とが菩薩なり。心靈更生して宇宙的同情を以て人類に幸福を與ふる菩薩なり。

佛界。世界にては釋尊である。菩薩の大願大行已に完結し世界無上の聖者、形は人格にして、內面は常寂光土無量光壽なるが故に、釋尊は人間より見れば人なれども精神は無量光壽の如來である。永恒常住の如來である。

宇宙本質を自己の體として、而して一方には金銀瓔珞寶石を以て莊嚴れる至美の淨土に安住して光明普ねく十方を救ひたまふ。

佛界は人格として見るは實は人間の爲に應現したるのみである。

一大法身。天地萬物の實體を佛敎にては之を法身藏性と名づく。萬有を統一し總括する精神なればまた總該萬有心と云ふ、宇宙大精神に一切智と一切能との屬性あり。知によるが故に萬有に秩序あり。能力によるが故に萬物を生活々動せしむるのである。

宇宙の內面は本體の內面常恒不變にて、法身より顯現せられた現象界は變轉休むことなし。無明の意志體にて植物の如きも不識精神、すこしく進みて動物、人類に至りては、自然の目は覺めたる意識的なれども、聖靈は覺醒せずして無明で居る。已に無明より心靈の覺醒したる人は宇宙本質內容常寂光淨土に心靈は安立して敎祖の如きは一面は淨土に見たまひ一面には自然界に現じたまふ。吾人のすべての個々の精神は根底は即ち法身如來藏なり故に甚深である。

一心十界

佛敎にては宇宙一切有情界を區別して十界とす。之を以て衆生の種類を總括す。此十界は本一心より迷悟善惡種々の方面に發展して現はるゝものとす。衆生の一心は本一大心靈なる如來心の一分子なり。此の心に十界を具し、業に依りて十法界を造る。此心迷の故に三善三惡の六道に流轉し、悟る故に四聖界に現はる。邪見迷惡上品の惡業は地獄と墮し、肉慾我慾の中品の惡の病的なるは餓鬼の因となり愚痴矇劣なる下品の惡は畜生の種となる。傲慢倩忌競爭は修羅仁義五常人道を實踐するものは人道にして、圓滿公平無私博愛仁慈にして高等の善たるは天道上界とす。心靈進み覺醒し聖に入る者に、小聖は聲聞、肉的小我を脫し眞實涅槃に證入し、自から獨り生死の因緣を觀して解脫涅槃を得る者は獨覺にして、此二者は靈界の利己を專らにして利他を缺ぐ。

自性を悟り、若しは一大本佛の本願光明を仰ぎ、如來の光明に靈化せられ、向上して、眞善美の圓滿の域に達せんとするは菩提にして自他平等に無上道を期するは菩薩にして因圓果滿なるを佛陀と名づく。

今人間界に其意志と行爲とに十界あり。人の一身を掌る者は精神なり。其精神迷惡無道殘忍酷薄なるは地獄的性格とす。其內的精神は其外相に表象して獄的相を現はす其心體も幾日かたつにつれて其精力も迷惡の方に發達、其行また殘酷非道なり、其原因また然るべし。

佛道を修する人、宜しく自から自己の精神が、十界十如の中、日日何法界に意を向ひ、いかなる相を表象し、いかなる性格を爲し、其身心の全體をいかに造りつゝある哉。また精神力を何の方向に發達しつゝある哉を反省し自覺し、いかなる口意に作爲しつゝある哉と。三惡四趣の意向を改め、人天有漏の迷を執せず、聲緣の自利に偏せず、若しは自性の光明により、或は本地如來の大光明攝取の大光明を信受し、心々如來に靈化せられ、念々眞善美に向上し、如來の心光に靈化せらるゝ時は、其相永に麗、

姿色清淨に、其性格は靈聖的性格となり、全體悉く心光に充され、其心力は無限の一大靈力と聯絡し、身口意になす處如來より働く、其心こゝにある時、自己の精神佛（　）する時は、緣として如來光明ならざるなし。

佛教にては宇宙間の萬有の衆生界を十界に別ちて總括す。此十界は本一心より迷悟善惡種々の方面に向つて發展せられたるものなり。衆生の心は本一大心なる如來藏心の一分子、此心、理に十界を具し事に十界を造る。

個人は此自己に具有せる十界の性より十界を造り出す。

一心迷ふ時は六凡三善道と三惡道なり。悟らば四聖法界と現はる。十界各十如の法を具ふ。所謂相性體力作因緣果報本末等。

人の一身を掌る者は其精神なり。故に其精神にして逆惡無道地獄的性格に成熟する時は、自から其內的心が其顏面の相に表はれ、其身心の體も悉く獄をかたちつくり、其精力も逆惡に發達し、其作行また殘酷非道なり。此には其原因先天的の惡に感じ易き性、また四圍の事情に惡化されて斯くなる。

三惡三善四聖法界各個人界中に其精神性格と行爲とに依て區別する時は十界顯然なり。

一心理に十界を具し行に十界を造る。衆生心の源は即ち如來藏心なり。迷は即ち善惡六道と變じ、悟らば即ち四聖法界と現はる。十界各十如の法を具し、而も其身心を形成す。十如とは謂く相性體力作因緣果報本末等なり。

今人界に在て其精神と行爲とは十界十如顯然たり。精神已に地獄の業熟す時は其邪惡の相外に表はれ、內に性格を成し、全體惡に充され、惡力發達し、三業悉に逆惡を

爲す。其因緣果報即ち知るべし。亦肉慾我慾の病的なるは餓鬼道格、愚痴、弊惡なるは畜生道格、憍慢にして鬪諍を好むは修羅格、仁義五常人道を完うする者即ち人道格、至善圓滿公明正大なるは天道格、斯らの衆生は主我を執し、生死に浮沈し、六道に輪廻す。

聲聞緣覺は適かに生死を超て、涅槃に入るも、只自利に偏す。菩薩は悲智兼備へ、上菩提を求め、下衆生を度す。因圓かに果滿て正覺を成し、佛陀は三身同じく證して四智圓かに照す。行者自から自己の精神と行爲との何の方面に向て發達しつゝある哉を反省し自覺すべし。何なる相を表はし何なる性格なる哉何の精力が發達し何に行爲しつゝある哉を反省し、而して三惡四趣の邪惡を改め、人天有漏の我を執せず、二乘偏眞の自利に偏せず、菩薩の大菩提心を發し、如來本願の光明を信念し、心靈化せられ、念々に向上し、如來心光に同化せらるゝ時は佛化の十如自から具せん。然る時其相常に麗しく、聖的性格となり、全體心光に充され、無限の靈力を力とし、靈的行爲を爲し、如來に緣て妙因已に成すれば、心靈の花は開けぬ、然るときは無上の妙果何ぞそれ除ならん。

一心理に十界を具し、行爲十界を造る、十界は即ち一切有情を總括し分類したるの名なり。衆生心源即ち如來藏、迷時善惡六道と現し、悟る即ち四聖法界となる、十界各々十如の法を具し、而して其身心を形成す。

十如とは謂ゆる相と性と體と力と作と因と緣と果と報と本末等となり。此十法を身心を莊る。邪見逆惡殘忍酷薄、上品の惡業は地獄の因、肉慾我慾嫉妬慳貪、中品の惡業は餓鬼道に生ず。愚痴弊惡横行非理、下品の惡業畜生の卵子。憍慢勝他好で鬪爭を作す下品の善は即修羅道の預備。仁義五常人道の義務を完す中品の善をなす者は人道の權利を有せり。至善圓滿仁慈公正上品の善は天の高閣に登る。斯迷の衆生主我を執

し、六道に輪回し生死を脱せず。

聲緣の二乘は適かに靈界に道ひ、眞空涅槃を得れども、利他の德を備らず。菩薩は仁慈兼備上求菩提下化衆生、因圓果滿成正覺三身同じく證して四智圓かに照す。

一心理に十界を具し、業十界を造る。一心迷ば、即ち六凡、即ち三惡道と三善道、悟るときは即ち四聖法界と現る。十界に各十界あり。今人界に十界あり。十界に各十如あり十如とは相性體力作因緣果報本末等となり。一心既に地獄格を成す時は其邪惡の精神の相貌に表現し、其性格を成し、全體逆惡に充され、惡力發達し其作意惡を作す。

地獄

心性惡、中央に三面六臂獰猛の相を以て表せる魔鬼あり、三面は衆生罪惡の淵源たる貪瞋邪見の三毒を表はす。六臂の羯摩は殺盜婬の身の三惡を表し、口は妄僞惡口兩舌の口の三惡を示し、頭に十頭は忿恨覆惱嫉害憍誑無漸無愧の隨煩惱を表し、頭より發する猛火炎は其精神より發出する處の八億四千の邪惡煩惱の念々其胸中より常に燃出し、一切罪惡はこの心意を動機として、身行爲と言の語とに於て、一切地獄の業を起すものなることを示す。

罪人に階級あり、等活墨繩衆合叫喚大叫喚焦熱大焦熱無間地獄に至る。

世界人類の光なる敎主を害せんとせる提婆、世の救主に死刑を宣告せる(セラト)を始として(　　)如き人類心靈界の光明を妨害する眞理を無する邪途の逆惡人は無間の苦底に墮在せり。

次に天理人道を無し五逆十惡の罪人。

身王公の上に在て己が一人慾を充しめん爲に萬民を塗炭の苦しましむる暴惡の王公例へば殷の紂夏の桀の類是無間大焦熱に墮落す。次に一人の惡意によりて衆多の人に惱ます殘忍酷薄人を殺すこと菜大根を切る如くだに感せず己が死刑の宣告にも毫も恐怖を感ざる罪人あり。また衆人を黑蛇に嚙ましめ其劇痛を興じて宴の興とする暴王あり。人の害せらるゝを興じて初めて笑ふ惡婦あり。郎を惑はし萬民を苦ましめし毒婦姐妃あり妖婦あり奸婦あり。

三世因果一心十界。三世因果の理は、大にして法界に在り、小にして微塵の中にも行はる。

世人謂らく地獄天堂は此人間の目前に在り。此の眼前の地獄天堂の外に在を知らずと。實に爾り。殺人偸盜奸婬詐僞等の犯罪によりて王法に刑罰を蒙り獄牢に呻吟し桎梏枷鎖身に繫られ懲役の罰を被る如きは即ち眼前の地獄にて、金殿玉樓に綺羅の粧を輝かし榮化に日夜娛樂に暇なきは天堂なりと。實に然り。之全く人中に分現せる地獄天堂なり。此人間の中に六道現在するのみにあらず、一家の中にもまた六道あり。

一部落にもまた村政の賞罰あり、一家の庭にもまた父母は其子女子に對する賞罰としても天堂地獄は現在す。一身の中にもまた日日三業の業作六道現在す。

人間界に六道現在せる如く、大なる法界に十法界現前す。時間の三世因果に、大にして此世界に現在を賢劫と名け、過去を莊嚴劫と名け、未來を星宿劫と名づくる等、是大なる世界に三世あり。また個々に過去身現在すと。世紀に於ても二十世紀の過去は十九世紀、未來は廿一世紀、年にも月にも時々刻々にも念々刹那に至る迄、過現未の三世は歴然たり、十界にも亦大にして法界に同徧し、一國に於ても一家にも一身にも十界歴然たり。

昭和二年　六月廿八日印刷
同　　三十日發行
誌代年七冊登圓貳拾錢(郵稅共)
年拾貳冊　貳圓(郵稅共)
編輯發行人　山崎　辨成
東京市小石川區茗荷谷町九八
印刷人　小林七太郎
東京市小石川區水道端二ノ四四
發行所　ミオヤのひかり社
振替東京六六八五一番